

朝香宮より御言葉を賜ふ

[illegible]

學生拳鬪大會第二日

[illegible]

本社
主催
小八家子見學團

が割れ、に碧空に浮き
 遠外瞰望は持つて来い
 祭日暇日は六日本社主催
 非常會社見舞の呼八定期
 は交通不便を氣を平らな
 十時には百二十餘名の見
 をバズ六時半分業開始
 に向けて出發、電報子
 記念碑を石に見て満快た
 上を昇る。雲伏道洛か

午後零時、青井村主・神堂
 案内で男子部前山形、池田聖
 信會館禮堂内に見學を行つた
 中には修女を、話しかけるカメヲ
 向ける者、語しにかける者
 等修習院に時など五男性の香く
 を平和せる一晝は近頃近在の信
 念の饒め、當時は近頃近在の信
 徒を續々と一場に集め御霊の

お祈りを捧げ、参加者も共
 かりを挙げ午後一時四十五分
 信仰に明け信仰に明けの聲か
 の達理境を後に一路新郷へ！
 途中小倉林部落に交通會社サ
 ビスのまぐわ瓜各々四個
 宛士主に午後四時前着解散

時局を辨へぬ不埒者

日午後三時三十分頃車夫
の婦人通出所へ不審目と云
つて来たので係官が表へ出て
て来たら、係官が去つてい
る。正體よくなく疑入でゐる
男を連行したところの
男は三井百貨店洋服職工
鮮生太郎(二七)であつた。
手紙も手廻りもなかつた。

たとふに余然聞知せず云ひ
隣家の某米屋の行爲ではな
かと言ふが直ちに並木街へ
が出頭したところ某の味方
の言に之を判明、越後縣警署
に入付玉を眞贋内調査を以
てして子引下たる

若妻のカス自殺
鮮生の妻カス(二七)であつた。
鮮生の妻カス(二七)であつた。
鮮生の妻カス(二七)であつた。

さん(二)「假名が硬い
て倒れて居るの、直ち
に深町醫院の往診を求めた結
ぶまいせん不甲斐ない私
した、お許し下さい」との傳
言きより、格好の瓦斯自殺で
ることが判明した、なほ喜彦
さんは本年一月内地で平山氏
と結婚現在妊娠六ヶ月で西
な性質か或は發作的な
テリではないかと見られ
居る

けふ(七日)

▲清瀬社員射撃開閉 於東京

一 た、最初の鈍撃、續いて頭部

日本橋通派出所は
醉客の喧嘩仲裁所
これぞ事件の根本原因

と共に桑田警尉は鋪道上
立となつた、續いて兩手
戴の左胸部を押へてヨロ
と云ふやうに、

鉄彈を打ちこんだ「キヤッ」
とさぬを引き裂く様な女の悲
鳴が響つた、女給と泥醉客を
桑田警尉の姿は悲憤

の身體を精神力で支へ
ある、一タタタ」と二
重傷の身を屈せし兒は

[illegible]

全日本中等學校武道戰

[illegible][illegible]

